

「バリ島の伝統音楽と生活との関わりー自然と共に生きるー」

国際コミュニケーション学科 岩井 沙矢香

現代の日常生活においては、毎日、必ずと言っても過言ではないほど、音楽を耳にするようになりました。娯楽や冠婚葬祭などの儀礼の場でも用いられるようになった音楽と、人々の生活との関わりをテーマとし、バリ島の伝統音楽である「ガムラン」を通して追求してきました。

ガムランが広まった歴史的背景として、重要な宗教や稲作農耕文化、また、観光地としてのバリという点にも視野を広げることで、ガムランが単なる音楽ではなく、「バリ人の魂」というべきものであるということに気付くことのできる論文に仕上がったのではないかと思います。

私は、なぜ音楽が人々との生活に密着するようになったのかという点に疑問を抱き、今回のテーマを選択しました。そこで「ガムラン」を取り上げたのは、私が小学生の頃に聴いた「ケチャ」という音楽に衝撃を受けたことがきっかけです。

「ガムラン」と「ケチャ」は同じ音楽構造をしており、どちらもバリ島の伝統音楽であると言え、様々な儀式などにおいて、頻繁に演奏される「ガムラン」に焦点を当て追求することで、疑問を解き明かすことができるのではないかと考えました。

こうして書き上げた論文が、今回、最優秀賞を受賞することができたことを非常に嬉しく感じています。

受賞論文で、バリ島の伝統音楽「ガムラン」について書きましたが、私は現地で「ガムラン」を聴いたことはなく、市販のCDやDVDを視聴し、それらを参考にしながら論文を書き進めてきました。

CDやDVDからでも、ガムランの奥深い響きとその迫力に圧倒されるのですが、ぜひ、バリ島に行く機会を作って、現地での演奏を聴いてみたいと思います。

今ではバリ島の伝統音楽と言えば「ガムラン」であるというイメージが徐々に広まりつつあるようにも思いますが、実際、その音楽を聴いたことのない人もたくさんいるのではないのでしょうか。

今回の論文作成において、ガムランは自然を十二分に活用し、生きとし生けるすべてのものを取り込んで、それらから様々な知恵を得て作られているということや、日常的な生活はもちろん、その枠を超え、バリ人の宇宙観をもガムランに反映させているということを知ることができました。このように「ガムラン」を深く掘り下げて調べることで、そこから学べるいろいろなことがあります。

1人でも多くの方がガムランを聴いて、音楽の表面的なものではなく、その裏側に隠されているバリ人の神や自然を大切に想う精神と、周囲の人との繋がりを重要視する心を感じてもらいたいと思っています。